

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100896		
法人名	社会福祉法人 克仁会		
事業所名	グループホーム 恵苑	ユニット名	Aユニット
所在地	〒311-1207 茨城県ひたちなか市烏ヶ台11836-1		
自己評価作成日	平成25年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/service/kaigo31.nsf/F5E20FF9A80F8E4C49257A47000F8982/\$File/1132_megumien.pdf?OpenElement
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月19日	評価機関 決裁日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「家庭的な環境と地域住民との交流の下で 安心のある場所でありたい 人と人 心と心のつながりを忘れない」という基本理念に基づき、全職員が共通理解を持って、その理念に沿ったケアが提供出来るように日々取り組んでいる。入居者一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、本人の意志を尊重しながら、優しい言葉掛け、態度、対応を心掛けている。</p> <p>また、残存機能の維持、向上の為に、すべて介助することなく、本人の持っている力を十分に発揮できるように支援している。認知症の進行防止や日々の生活に張りを持ってもらうために、役割を持ってもらい、職員と一緒にやる事で、達成感や生きる喜びを味わっていただいている。</p> <p>その他、園芸療法や作品作りにも積極的に取り組んでいます。また、地域に根ざした施設を目指している事から、地域とのつながりを大切にし、地域の方や各種ボランティア、学校等との交流を深めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は同一法人の病院や介護事業所と連携を図り、利用者が安心して暮らせるように支援をしている。</p> <p>地域との付き合いを大切にし、清掃の日利用者や職員が側溝のゴミ拾いや清掃活動に参加しているほか、地域の盆踊りや夏祭り、敬老会に参加するとともに、事業所で行う「恵苑祭」に地域の人々を招待するなど交流している。</p> <p>共用空間は広く明るく、清潔に保たれ、和室に桃の節句の雛飾りと花が飾られるとともに、居間兼食堂には利用者と職員で制作した偕楽園の梅林を模した特大のちぎり絵が飾られたり、廊下には行事の写真や利用者の書いた習字などが掲示されて季節感や生活感を味わうことができ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない。」を理念として掲げ、事務室カウンター上に掲示し、常に確認、共通理解できるようにしている。また、ネーム裏に入れ、自らが理念に基づいたケアが実践できているかどうか、確認できるようにしている。	家庭的な環境と地域住民との交流の下で、「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない」との事業所独自の理念を作成し、玄関や介護職員室、各ユニットの居間兼食堂に掲示するとともに、職員は名札の裏に理念カードを携帯して共有し、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から地域に根ざした施設を目指し、地域との付き合いを大切にしている。ゴミ拾いや自治体の行事等にも参加し、また苑での行事にも参加を促している。地元の保育園や小・中学校、専門学校などの介護体験や職場実習などを通し、交流を深めている。	日頃から地域との付き合いを大切にし、清掃日には利用者と職員が側溝のゴミ拾いや清掃活動に参加しているほか、地域の盆踊りや夏祭り、敬老会に参加したり、事業所で行う「恵苑祭」に地域の人々を招待したりして、日常的に交流している。 地域の保育園児や小学生が事業所の行事に訪れ、歌や踊り、和太鼓を披露してくれているほか、紙芝居やハーモニカ、シルバーリハビリ体操など、数々のボランティアを受け入れている。 小学生や中学生、専門学校生の職場体験や介護実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護アドバイザーや認知症の研修と修了した職員を中心として、本人やご家族、相談者や見学者の対応をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、家族代表、市の高齢福祉課職員が委員となり、2ヶ月に1回会議を開催している。入居者状況、行事報告、その他、取り組んでいる事や、現在の注意点や問題点を報告し、意見や感想などをもらっている。出された内容は記録として保存し、ケース会議等で職員に報告するなど、今後のサービス向上に役立てている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、自治会長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の運営状況や活動報告をするとともに、話し合いを行って会議録を作成しているが、委員からの発言は感謝やお褒めの言葉は頂くが、必ずしもサービスの向上に資するものとはなっていない。	委員のメンバーに地域住民や消防団員などを加え、幅広く意見を得て事業所がより地域密着型サービスの運営となるよう取り組むことが望まれる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員でもあり、普段から連絡を密に取り連携は取れている。また、市主催の集団指導には必ず参加し、必要な情報を得ており、施設内での会議等で職員に伝達するなど情報の共有に努めている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は市担当者の来訪時に事業所の運営やサービスの課題などを相談するとともに、必要に応じて市役所に出向いたり、電話などで情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として、原則身体拘束は行わない事としている。各ユニットへの資料掲示や苑内研修において、職員は必要な情報、正しい知識を理解している。どうしても拘束を行う際には、代替策の検討、定期的な見直し、入居者の状態観察などをしっかりと行う事している。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、定期的に身体拘束についての内部研修を実施し、職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。 現在不意に外へ出てしまう利用者があるため、家族等の了承を得て玄関は内側からは開かないようにしているが、利用者が希望する場合は職員が付き添って外出ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料掲示や苑内研修にて、正しい知識を得ている。日頃より虐待防止について注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修において、権利擁護についての知識を得ている。また、入居者の中には成年後見制度を利用している方もおり、後見人とは密に連絡を取り合いながら、情報の共有に努めている。その他、専門的知識等は、来苑時に、聞いたり、資料を貰ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族にきちんと理解してから契約して頂きたい為、時間をかけてゆっくりと説明した上で契約して頂いている。また、不安事や疑問点などがある時は、いつでも気軽に相談できる体制を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の廊下に、苦情箱を設置している。本人やご家族等からの苦情や要望、希望については報告書を作成し、職員間で情報を共有して今後の対応策を検討している。年度末の家族アンケートについても集計結果をご家族に送付。職員にも集計結果を伝え、今後のサービス向上のためのものとしている。	玄関付近の廊下に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、利用契約時に説明している。 職員は利用者と日々の係わりの中で意見や要望を聞くよう努めるとともに、家族等からは来訪時に話を聞いたり、年1回家族アンケートを実施したりしている。 家族アンケートは毎年同じ内容となっており、必ずしも率直な意見等を汲みあげるまでには至っていない。	家族アンケートの内容について全職員で話し合い、事業所として家族等に尋ねたい項目を検討して実施し、より運営に反映させることが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行うケース会議にて、運営や業務内容、入居者に関する事など、職員と話し合い、まとめた意見や希望、要望を介護部長や施設長に報告、提案している。	管理者は職員が意見や提案などを随時記入することができる業務改善ノートを作り、月1回の職員会議でノートに記載されていることを基に話し合い、利用者へのケアサービスや備品購入の要望、勤務体制などについて、出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間管理目標にて、職員と定期的に面談を行い、進行状況を把握している。その際に、職員の機能や要望、不安事や大変なこと等を確認している。代表者はこの目標の達成度や個々の努力について、適切に評価してくれている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な苑内・苑外研修に参加し、様々な知識、技術を学んでいる。それを全体会議にて報告し、全職員で情報の共有を図っている。また、その知識や技術を自分の部署にて活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は複数の施設を経営する中での経験や、様々な役員等で作ったネットワークを活用し、職員が同業者などと交流する機会を多く作ってくれている。その中で得た情報や良い所を自分の仕事の中にも取り入れ、サービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの本人の生活歴を基に入所時のアセスメントをしっかりと行い、本人、ご家族の希望・要望などを把握した上で、信頼関係の構築に努めている。職員間でも情報の共有を行ない、安心して生活出来るように統一した対応が出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談の時点から、本人・ご家族の話によく耳を傾け、適切な対応が出来る様に対応している。入所してからもより良い関係が保てるように、定期的に話をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前の相談時の情報を基に、サービス開始時の本人、ご家族の話をよく聞き、これからどのように生活していきたいか、今、問題となっていることは何かなどを把握し、アセスメントした上で、本人に合ったサービスを提供出来る様にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは在宅生活の延長であると考え、施設における家族という気持ちで支援させていただいている。常に入居者の声に耳を傾け、寄り添いながら毎日を過ごせるように対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族と連絡を取ったり、毎月お便りを出して入居者の生活状況を伝え、安心して頂ける様にしている。また、行事等にも参加していただき、本人と家族がともに過ごす時間を作りながら、ご家族との関係作りにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にして過ごせるように、ご家族や友人・知人の面会や馴染みの場所への付き添い介助など、可能な限りその関係性が途切れないように対応している。	家族等の来訪やかつての仕事仲間、隣接の通所介護事業所の知人の面会がある。利用者の自宅を見るために付き添いをしたり、家族等と墓参りに出かけたり、正月は自宅に泊まれるよう職員は家族等に連絡をして利用者の希望を伝え、出かける時の持ち物の準備を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を全職員がきちんと把握し、適切な関係が作れるよう援助している。また、一人孤立したり、一人ぼっちにならないように、行事やレクリエーションへの声掛け、職員が間に入りながらの関係づくりに力を入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となっても、これまでの関係性は継続して保つ事が出来る様に、今後もよき相談相手となるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より担当者を中心に、思いや希望等を把握するために、関わりの時間を多く持てるようにしている。また、認知症等で本人からの把握が難しい時には、その都度、ご家族に確認しながら対応するようにしている。	サービス開始時のアセスメントを全職員で共有するほか、利用者との日々の係わりの中でコミュニケーションを図りながら思いや意向を把握しているが、記録として残すまでには至っていない。 把握が困難な場合は利用者の表情や仕草から把握したり、家族等から意見を聴いて利用者の立場で考えながら支援をしている。	把握した利用者の思いや意向をケア記録や申し送りノート等に記録として残すとともに、全職員で共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症の方と接する際は、これまでの生活歴が大切であるため、これまでの本人の生活パターンや環境を本人やご家族との話、アセスメントの中できちんと把握し、希望に沿うような暮らしを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日の過ごし方は違うため、本人の意志を最大限尊重し対応している。心身の状態や本人の有する力については、担当者を中心に把握に努め、看護師とも連携しながら対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月ごとにモニタリングを行い、計画作成担当者、看護師と一緒にケアプランに内容を検討している。ケアプランはご家族に郵送し、内容を確認してもらって同意を頂いている。その際、書面にてご家族の希望やケアプランの内容等について確認を取っている。	介護計画は利用者や家族等の希望を聴くとともに、看護職員や担当職員とケアプラン会議を行って作成している。 モニタリングを3ヶ月毎に実施し、介護計画設定期間毎に見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録、月間記録表などに個人の記録が記入しており、職員は業務前に確認する事で情報の共有を図っている。ケース記録にはケアプランを添付し、プランの内容に沿った記録となるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望には、柔軟に対応出来る様に努めている。サービス内容などは、その時々状況に合わせて、臨機応変に変更出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアや学生・実習生などを受け入れることで、入居者の楽しみ、生活の張りになっている。また、自治会や民生委員などとも連携しながら、施設内外の情報をお互い共有できるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、本人・ご家族の希望を優先させ、その他については協力医療機関と密に連携し、適切な医療が受けられる体制を取っている。	契約時に利用者や家族等からかかりつけ医の希望を確認し、希望する医療機関への受診を支援している。 今までのかかりつけ医を受診する場合には、家族等に対応してもらうことを基本とし、介護サマリーを作成して付き添いの家族等及びかかりつけ医に健康状態を伝えるとともに、受診結果は家族等から聞き取り、看護記録や申し送りノートに記録して職員は情報を共有している。 協力医療機関への受診は看護職員が付き添い、受診結果は電話又は家族等の来訪時に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や必要な処置、協力医療機関との連携については、看護師を中心として行なっている。日々の業務は、お互いに協力しあいながら、情報の共有を図って対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時と退院前、医療機関の担当者と家族を含め、今後についての話し合いを持っている。状態変化や連絡がある場合には、すぐに連絡をもらえる体制になっており、情報の共有は図れている。また、定期的に病室に顔を出し、本人の状況を確認するとともに、担当者からも状態等について確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、状態が重度化した時に、ご家族に状況説明と今後の希望について確認する機会を作り、本人、ご家族の希望に沿ったケアが提供出来るよう、医療機関とも連携して対応していくようにしている。	重度化した場合の対応に係る指針及びマニュアルを作成し、事業所でできることとできないことを利用契約時に利用者や家族等に説明している。 これまでに10数例の看取り介護の経験があり、同一法人が運営する他事業所と合同で行う研修を含めて年2回看取りに関する研修を実施し、利用者や家族等が安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変時や事故にて怪我をしてもあったりした時の対応方法は、看護師に確認し、全職員が対応出来る様にしている。また、緊急時対応マニュアルや急変時対応の苑内研修にて知識、技術を高めるような取組みもしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し、職員に周知・徹底し対応出来る様にしている。また、定期的な避難訓練、消火・通報訓練等を行っている。また、備蓄品も定期的な確認を行いながら、必要な物はきちんと備蓄できるような体制を取っている。	避難訓練は年4回実施し、内2回は隣接する介護老人福祉施設と合同で実施している。事業所のみで実施する2回の訓練のうち、1回は夜間想定訓練を行っている。実施後は反省や感想等を記録に残し、次回の訓練に活かしている。 避難訓練に地域住民や消防団員の参加を得るまでには至っていない。 粥やレトルト食品、缶詰、飲料水及び懐中電灯などの防災用品を備蓄するとともに、備蓄品の一覧表を作成して管理している。	避難訓練に運営推進会議などで働きかけたり、事業所に設置しているAEDの取り扱い講習会を計画して地域住民に参加を呼びかけたりして、地域住民や消防団員の参加が得られるよう取り組むことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として適切や言葉使い、態度、接し方を心掛けている。また、接遇に関しては職員に対して、定期的な確認、指導を繰り返している。	職員は接遇についての研修を定期的を実施しており、利用者一人ひとりの人格とプライバシーを損ねない言葉かけや対応を日頃から心がけている。 写真の掲載など個人情報の取り扱いについては、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ているほか、個人情報の書類は事務所の鍵のかかる書棚に保管するなど、適切な取り扱いに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物を自分で選ぶ選択食、レクリエーションの内容や誕生会やクリスマス会の時のプレゼントの内容、洋服の組み合わせなど、できるだけ自分で選び、決められるような機会を多く作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを尊重しながら、その方のペースで過ごせるように、本人、ご家族に希望を確認しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、可能な限り自分で選んでもらい季節に合った洋服を着られるようにしている。また、定期的にお化粧をしたり、爪にマニキュアを塗ったりして、おしゃれする楽しさを忘れないようにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時には季節に合わせた音楽やテーブルに花を飾り、目で見るとともに味も味わっていただいている。食事の盛り付けや食後の後片付けなど、職員と一緒にしている。	献立は同一法人の介護老人福祉施設の栄養士が作成しているが、利用者の嗜好を考慮したり、自家菜園で採れた季節の野菜を加えて調理をしたりして工夫をしている。利用者は状態に応じて盛り付けや配膳、下膳、食器拭きなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。季節毎の行事食を取り入れたり、数種類の料理による選択食や誕生月の利用者は外食を楽しむことができるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士の指示に基づき調理し、量や形態に関してはその人に合わせた内容に調整している。苦手なものには別の物を用意するなど臨機応変に対応している。また、毎食後、食事量、水分量のチェックを行い体調管理などの目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内チェックとケアを本人の能力に合わせ、見守りや声掛け、介助を行っている。また、月に3回、歯科医師と衛生士の訪問診療があり、定期的に診察、ケアを実施しているため、口腔内や義歯の清潔が保たれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としながら、本人の状態に応じて対応している。また、本人に合ったオムツ使用の為、担当者を中心に検討をしている。	排泄チェック表は作成しているが、職員は排泄チェック表に頼らなくても利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握するとともに、時間を決めて声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。生活支援委員が中心となり、利用者一人ひとりの状態に合った種類やサイズのおむつ、パッドの使用について検討して支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ナースにて、毎日排便チェック、水分・食量チェックを行い、必要に応じて下剤等を内服している。また、腸の動きを活発にするためラジオ体操やリハビリ体操の実施とセンナ茶の飲用で便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時間や曜日は、本人の希望を最大限尊重しながら決めている。体調不良や拒否にて入浴されない時は、時間や曜日をずらして対応している。また、リンゴ湯やゆず湯、菖蒲湯など季節を感じてもらえるようにしている。	入浴は週3回午前中に実施することを基本としているが、時間や順番は利用者の希望にそって入浴ができるよう支援している。時には隣接する通所介護事業所の大浴場を利用することができ、利用者は大浴場に描かれた風景画を見ながら入浴を楽しんでいる。大浴場の脱衣所にはCDプレイヤーがあり、職員は音楽を流しながら入浴が楽しめるよう支援している。菖蒲湯や林檎湯、柚子湯を取り入れて季節が感じられるように支援している。入浴を拒否する利用者には時間をずらして声かけをしたり、曜日を変えて入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状態や体調に合わせて、休息やお昼寝などは自由としている。夜間は、事故や怪我などなく安心して休めるように、2時間ごとに訪室し、確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、薬剤情報がファイリングしており、定期的に確認する事で把握している。薬に関しては、手渡しするだけでなく、きちんと飲み終わるまで確認をしている。症状の変化については、日々の体調管理とナースと連携して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、食事のメニュー発表や掃除のお手伝いなど、一人ひとりに役割を持っていただいている。また、草花への水まきや園芸療法の取り組みなど、楽しみながら行なえるように取り組みを進めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に合わせて、苑外への散歩や外に出かける行事を企画、実施している。その他にも、自宅やお墓参りなどへも一緒に出掛けたりしている。また、ご家族にも外出や外泊などの協力を依頼している。	職員は利用者の体調に気を配りながら一緒に散歩や苑内でお茶を飲みながら外気浴をしたり、畑や植木への水やり、買い物などに出かけられるよう支援している。 初詣や季節の花見、春と秋の遠足、暮れ市、海浜公園などへ利用者の希望を聞いて年間計画を立てて出かける他、家族等の協力を得て外出や外泊ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行なっているが、希望者には小額のおこづかいを渡している。外出時の買い物等についても、金銭感覚やお金も価値を忘れないように、できる限り自分で行える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置してあり、自由に電話する事ができる。希望があれば事務所から電話を掛けたり、電話番号を調べたりもしている。季節ごとには絵手紙を作成してご家族に送ったり、送られてきた手紙やはがき等は、本人に渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、掃除、整理整頓を定期的に行い、きれいな状況を保てるようにしている。温度や湿度についても管理を徹底し、快適に過ごせるように配慮している。食堂のテーブルに季節の花を飾ったり、行事の写真を掲示するなど、季節感や生活感にも配慮した空間作りを行なっている。	共用空間は広く明るく、清潔に保たれ、室温管理がなされているとともに、採光にも配慮された造りとなっている。 和室に桃の節句の雛飾りと花が飾られ、居間兼食堂には利用者と職員で制作した偕楽園の梅林を模した特大のちぎり絵が飾られている。 廊下には行事等の写真や利用者の書いた習字が飾られ、季節感や生活感を味わうことができ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には食堂や和室を設置し、誰でもゆっくりと寛げるようにしている。食堂テーブルの座席は、仲の良い気の合う人同士を出来るだけ隣同士にして、楽しく会話しながら、美味しい食事が取れる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活の延長と考えているため、ご自宅で使用していた本人の馴染みの物を持ち込んでもらい、自宅の自分の部屋と同じように使ってもらっている。居室内には、写真を貼ったり、遺影や仏壇を置くなど、一人一人の思い出を大切に環境作りを心掛けている。	居室はクローゼットやベッド、カーテン、エアコンが備え付けられている。 ベッドでの生活が難しい利用者には、フローリングにマットレスと布団で就寝ができるよう対応している。 利用者は家族等と相談し、テレビや衣装ケース、籐椅子、家族等との写真、人形や民芸品、時計、カレンダー、手作り作品など、使い慣れた物品や馴染みの物品を置き、自分らしく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、廊下やトイレ内には手すりを設置して、自由に安心して過ごせるようにしている。各居室は、本人の希望、要望などを考慮しつつ、安心・安全面を考慮したベット、家具等の配置に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 恵苑

作成日 平成26年7月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思いや意向を記録として残しておらず、職員間でも共有できていない。	一人ひとりの思いや意向を的確に把握したうえでプランに反映しえいきたい。	利用者の思いや意向を確認した際に記入する用紙を作成し、職員間での共有に役立てる。	1 か月
2	10	家族アンケートの内容が、率直な意見等を汲み上げる内容となっていない。	施設として更なる向上の為、ご家族からの意見を多く取り入れていきたい。	次回のアンケート時には、率直な意見等が記入できるような項目へと変更していく。	3 か月
3	4	運営推進会議のメンバーに、地域住民や消防団員が入っていない。	地域住民の方々が会議に参加することで、地域での情報を共有していきたい。	地域住民や消防団員等、地域の方々へ会議への参加を促していく。	3 か月
4	35	避難訓練等に、地域住民の参加が呼びかけられていない。	実際の災害時に協力的体制が築けるよう、普段から交流を図っていきたい。	避難訓練等に、地域住民への参加を促していく。	2 か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。